

■ 第26回 多摩川流域セミナー 開催報告

「多摩川ジャブジャブ大作戦」～水辺の楽校で生き物を調べよう～

主催：多摩川流域懇談会

平成19年10月20日(土)、前日の雨がうそのような晴天のなか、第26回多摩川流域セミナーが行われました。

今回は、『多摩川ジャブジャブ大作戦』というテーマのもとに、多摩川の生き物を調べたり、かっぱの川流れを体験したり、水質を調べたりなど、子どもと大人と一緒に多摩川を満喫しようというものです。開催場所のとどろき水辺の楽校には、総勢113名(スタッフ含む)のみなさまにお集まりいただきました。



1.開会のことば

多摩川流域ネットワーク(TBネット)の中村文明さんからの開会のことばに続いて、多摩川流域懇談会会長の高橋裕さんからあいさつがありました。

そのあと体験にはいる前に準備運動を兼ねて、全員でラジオ体操を行いました。



2.ジャブジャブ大作戦開始！

参加者を2グループに分けて、川の中の生き物調べと、植物・昆虫調べを交代で行いました。

(1)川の中の生き物調べ

川の中の生き物調べグループは、まず台風9号の影響で散乱したゴミを拾ったあと、鈴木健太さんの指導のもと、水の中の生き物とりをしました。

大人も子どもも歓声を上げながら、魚とりに興じていました。



(2) 植物・昆虫調べ

植物・昆虫調べのグループは、河川敷や河原を歩きながら、観察しました。
植物の先生は古屋のリ子さん、昆虫の先生は大島勝夫さんです。



(3) 水質パックテスト

当日の多摩川の水質を、CODの試薬を使ってテストしました。先生は京浜河川事務所河川環境課の柴田さんです。



(4) カップの川流れ

カップの川流れでは、安全確保を十分に行った上で、子どもたちに川の流りに身を任せる楽しさを体験してもらいました。



3. 体験報告会

それぞれの体験を終えた後、体験報告をしました。司会は、東京都の高橋さんと京浜河川事務所調査課の増茂さんです。

昆虫の大島さんからは、イナゴ、ショウリョウバッタ、テントウムシ類などいろいろな昆虫が観察できたことが報告されました。また、昆虫博士の検定の紹介もありました。

植物の古屋さんからは、セイバンモロコシやカンエンガヤツリなど本日観察された植物の紹介とともに、多摩川での帰化植物の状況や、簡単な植物標本の作り方の紹介がありました。

水質の柴田さんからは、今日の水質はややきれい～ややきたないの間であったこと、水中に酸素が溶けていることが重要なことなどの説明がありました。

魚の鈴木さんからは、本日とれた生き物として、オイカワ、ヌマチチブ、スジエビ、ギンブナ、コイ、マハゼ、モクズガニ、アメリカザリガニなどの紹介がありました。

参加した子どもたちからは、「多摩川で一番大きい昆虫は何ですか?」「カニは家で飼えますか?」「外来種が多摩川にすみついたら、どうなりますか?」など、たくさんの質問が出されていました。



4 閉会のことば

最後に、京浜河川事務所の鈴木事務所長による閉会のことばがあり、その後、多摩川源流のヤマメを全員で試食して、第26回多摩川流域セミナーは幕を閉じました。

